

佐賀県山間開発地域

---

土地分類基本調査

---

浜 崎

5 万分の 1

国 土 調 査

佐 賀 県

1 9 7 9

## 序 文

我が国の国土は狭少で、世界有数の高密度の社会経済活動が営まれており、国土の有効利用を図りながら、地域住民の生活環境の確保と国土の均衡ある発展を図ることが、今日の重要な課題となっております。

このため、国土調査法では、都道府県土地分類基本調査により地形、地質、土壌等の土地条件を科学的、総合的に調査し、地域の特性に応じた各種開発計画、土地利用区分等を適正かつ合理的に行うための基礎資料を提供するものであります。

本県においては、昭和53年3月に国土利用県計画が策定され、県土利用の基本理念として、公共の福祉を優先に自然環境の保全を図りながら、地域の自然的、社会経済的、文化的諸条件に配慮し、総合的かつ計画的に県土の利用を進め、もって健康で文化的な生活環境の確保と県土の均衡ある発展を図ることを目指しております。

この調査は、国土庁の助成により昭和48年度「武雄」、49年度「呼子・唐津」、50年度「伊万里」、51年度「鹿島」、52年度「背振山」の各図幅地域を実施し、今回は「浜崎」図幅について調査を行い、ここにその成果をとりまとめましたので、今後の土地利用に御活用いただければ幸甚に存じます。

なお、調査に当っては佐賀県が事業主体となり、福岡県の協力を得て実施したものでありますが、国土庁国土調査課の御指導をはじめ、関係者の御協力に対し深く感謝申し上げます。

昭和54年3月

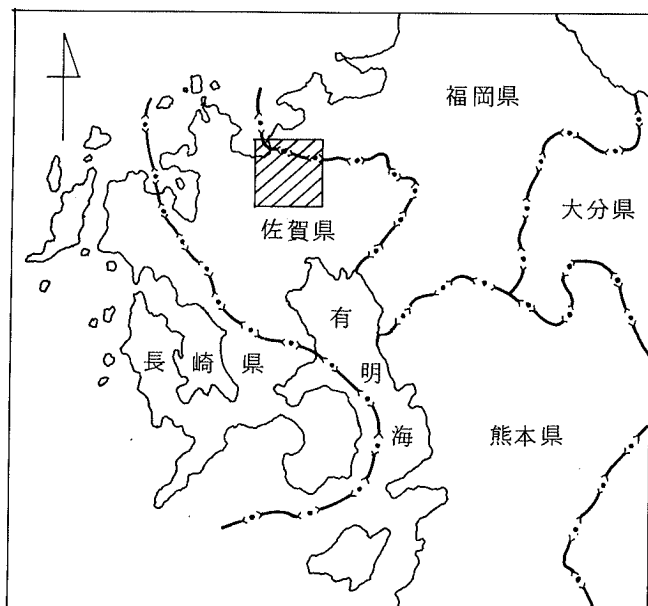
佐賀県企画室長 志岐常文

## ま え が き

1. 本調査は、土地分類基本調査関係の各作業規程準則（総理府令）に基づいて作成した「佐賀県山間開発地域都道府県土地分類基本調査作業規程」により実施したものです。
2. 本調査の成果は、国土調査法施行令第2条第4号の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿です。
3. 調査基図は、測量法第27条第2項の規定により建設大臣の刊行した5万分の1地形図を使用したものです。
4. 調査の実施担当者は、下記のとおりです。

総括	佐賀県企画室	土地対策担当
地形分類調査	佐賀大学農学部教授	渡辺 潔
	佐賀大学教育学部教授	大島 恒彦
表層地質調査	佐賀大学教育学部教授	大島 恒彦
土壌調査	佐賀県農業試験場 専門研究員	木原 唯幸
	佐賀県林業試験場 特別研究員	実松 敬行
	技 師	立切 哲也
	九州大学農学部助教授	竹下 敬司
	福岡県園芸試験場 研究室長	松井 正徳
	福岡県林業試験場 研究員	高木 潤治
	技 師	佐々木 重行
協力機関	佐賀県関係各課及び関係地方機関並びに関係市町村	
	福岡県農地計画課及び関係各課福岡農林事務所	

位置图



# 目 次

## 総 論

I	位置および行政区画	1
II	人 口	3
III	気 候	6
IV	交 通	8
V	主要産業の概要	9
VI	開発の現状と構想	21

## 各 論

I	地 形 分 類	23
II	表 層 地 質	27
III	土 壤	30
IV	傾 斜 区 分	42
V	水系・谷密度	44
VI	土地利用現況	47
VII	土壌生産力区分	48
VIII	利 水 現 況	50
IX	防 災	55

# 總論

# I 位置および行政区画

## 1. 位置

「浜崎」図幅は、佐賀県の北部山間地域の一部と福岡県の一部を包含し、東経  $130^{\circ}0'$  から  $130^{\circ}15'$ 、北緯  $33^{\circ}20'$  から  $33^{\circ}30'$  までの範囲を占める。

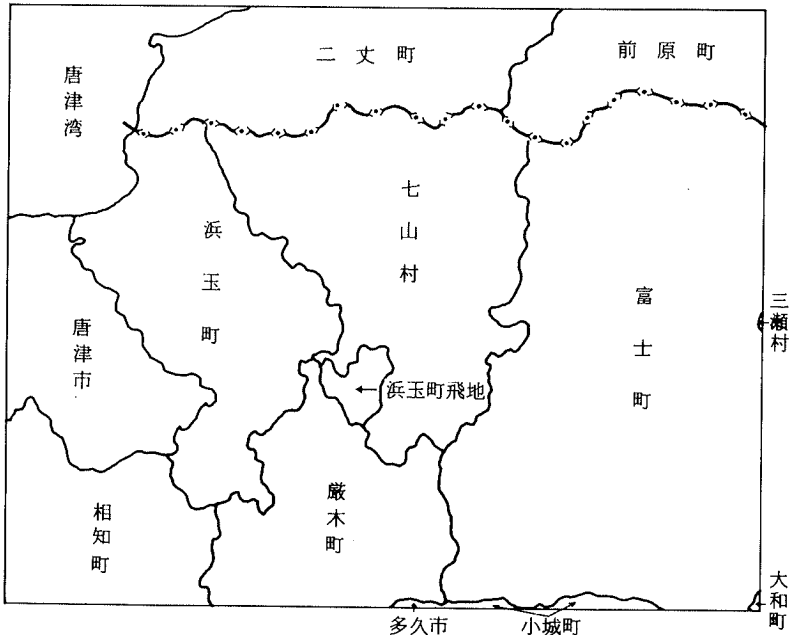
図幅内の面積は  $405 \text{ km}^2$  で、佐賀県域  $340 \text{ km}^2$ 、福岡県域  $65 \text{ km}^2$  となっている。  
(海域を除く)

## 2. 行政区画

図幅内の行政区画は、第1図のとおりで佐賀県側は、唐津市、多久市、大和町、富士町、三瀬村、小城町、浜玉町、七山村、巖木町、相知町の2市6町2村、又福岡県側は前原町、二丈町の2町と、両県合せて2市8町2村から成っている。

本図幅内に占める、これらの市町村の面積及び占有率は第1表のとおりである。

第1図 行政区画図



第 1 表 図幅内市町村面積

区分 市町村名		図幅内面積		市町村全面積 B (km <sup>2</sup> )	A/B (%)
		実数 A (km <sup>2</sup> )	構成 (%)		
唐津市		28	6.9	127	22.0
多久市		1	0.2	97	1.0
佐賀郡	大和町	1	0.2	55	1.8
	富士町	127	31.4	143	88.8
神埼郡三瀬村		1	0.2	41	2.4
小城郡小城町		2	0.5	45	4.4
東松浦郡	浜玉町	52	12.9	52	100.0
	七山村	63	15.6	63	100.0
	巖木町	35	8.7	60	58.3
	相知町	30	7.4	65	46.2
計		340	84.0	748	45.5
糸島郡	前原町	40	9.9	105	38.1
	二丈町	25	6.1	57	43.9
計		65	16.0	162	40.1
合計		405	100.0	910	44.5

資料：建設省国土地理院「昭和52年全国都道府県市区町村別面積調」

(52年10月1日現在)による。

ただし図幅内面積は土地対策担当調



## Ⅱ 人 口

「浜崎」圏幅に係る市町村の人口動態は、第2表のとおり、東松浦地区の経済・文化の中心地である唐津市においては増加しており、又、他の市町村においては減少しているが、今後、産業の振興、生活、居住環境の充実により減少傾向は落ち着くものと思われる。

第 2 表 人 口 動 態

項目 市町村名	昭和 45 年 国 勢 調 査			昭和 50 年 国 勢	
	世 帯 数 (世 帯)	人 口 (人)	1 世帯当り 人 員	世 帯 数 (世 帯)	人 口 (人)
唐 津 市	19,383	74,233	3.8	20,842	75,224
多 久 市	6,819	26,785	3.9	6,833	25,535
大 和 町	3,652	16,253	4.5	3,973	16,864
富 士 町	1,757	7,715	4.4	1,644	6,900
三 瀬 村	498	2,112	4.2	500	1,878
小 城 町	3,472	15,096	4.3	3,487	14,146
浜 玉 町	2,264	10,624	4.7	2,306	10,363
七 山 村	729	3,808	5.2	685	3,438
巖 木 町	2,257	8,647	3.8	2,218	7,951
相 知 町	2,713	11,106	4.1	2,736	10,621
計	43,544	176,379	4.1	45,224	172,920
前 原 町	6,963	30,662	4.4	8,499	34,645
二 丈 町	2,543	11,531	4.5	2,563	11,026
計	9,506	42,193	4.4	11,062	45,671
佐 賀 県 計	199,755	838,468	4.2	213,152	837,674
福 岡 県 計	1,096,026	4,027,416	3.7	1,261,777	4,292,963

資料：「国勢調査」

調査	増減数（50年～45年）		増減率 50/45	
	世帯数 （世帯）	人口 （人）	世帯数 （％）	人口 （％）
1世帯当り 人員				
3.6	1,459	991	107.5	101.4
3.7	14	△ 1,250	100.2	95.3
4.2	321	611	108.8	103.8
4.2	△ 113	△ 815	93.6	89.4
3.8	2	△ 234	100.4	88.9
4.1	15	△ 950	100.4	93.7
4.5	42	△ 261	101.9	97.5
5.0	△ 44	△ 370	94.0	90.3
3.6	△ 39	△ 696	98.3	92.0
3.9	23	△ 485	100.8	95.6
3.8	1,680	△ 3,459	103.9	98.0
4.1	1,536	3,983	122.1	113.0
4.3	20	△ 505	100.8	95.6
4.1	1,556	3,478	116.4	108.2
3.9	1,339	△ 794	106.7	99.9
3.4	165,751	255,547	115.1	106.6

### Ⅲ 気 候

本地域の唐津市、浜玉町など、玄界灘に面した地域では裏日本式の気象が現われるが、沖合を流れる対馬暖流の影響を受けて、気温が比較的に高い数値を示している。

又、富士町など山岳地方では、山岳地方特有の気象が現われ、平均気温は低温を示している。

降水量は、唐津、浜玉地方では年間 1,600 mm程度と少く、山岳地方では 2,500 mm程度と多くなっている。

**第3-1表** 月間平均最高気温 ℃(1961~1970)

観測所 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
唐津	8.7	9.5	13.6	18.3	22.8	25.6	30.6	32.2	27.9	22.2	17.5	12.0	20.1
古湯	6.9	8.2	12.7	19.0	23.4	25.4	29.2	30.9	27.3	21.8	16.2	10.3	19.3
七山	7.9	9.1	13.4	19.0	23.6	26.1	30.6	32.0	28.2	22.5	17.0	11.3	20.1
相知	8.5	9.6	13.9	19.0	23.8	26.1	30.8	32.3	28.2	22.5	17.3	11.6	20.3
前原	9.4	10.2	14.1	19.2	23.3	26.2	30.4	31.9	27.8	22.5	17.9	12.1	20.4
深江	9.3	10.2	13.5	18.6	22.7	25.6	29.9	31.1	27.4	22.2	17.4	12.1	20.0
平均	8.5	9.5	13.5	18.9	23.3	25.8	30.3	31.7	27.8	22.3	17.2	11.6	20.0

(注) 前原、深江観測所は、1941~1970の平均

**第3-2表** 月間平均最低気温 ℃(1961~1970)

観測所 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
唐津	1.8	3.2	5.3	10.3	14.3	18.5	23.6	24.8	21.0	14.7	9.6	5.0	12.7
古湯	-1.2	-0.8	1.7	8.4	12.3	16.2	21.6	21.4	17.5	10.7	5.2	0.8	9.4
七山	0.6	0.9	3.3	9.0	12.9	17.1	21.9	22.3	18.7	12.5	7.3	2.7	10.8
相知	0.1	0.5	2.9	8.9	12.8	17.2	22.8	23.0	18.6	11.4	6.3	2.0	10.6
前原	1.9	2.0	4.3	8.6	13.0	17.5	22.9	22.9	19.2	12.6	8.0	3.8	11.5
深江	1.9	2.0	3.9	8.4	12.6	17.1	22.7	22.8	18.6	11.8	7.5	3.7	11.1
平均	0.9	1.3	3.6	8.9	13.0	17.3	22.6	22.9	18.9	12.3	7.3	3.0	11.0

(注) 前原、深江観測所は、1941~1970の平均

第3-3表 月間平均気温

℃ (1961~1970)

観測所 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
唐津	5.3	6.5	9.5	14.3	18.6	22.0	27.2	28.5	24.5	18.4	13.5	8.2	16.4
古湯	2.8	3.8	7.1	12.8	17.7	20.7	25.4	26.1	22.3	16.2	10.7	5.6	14.4
七山	4.3	5.0	8.3	14.0	18.3	21.6	26.3	27.0	23.4	17.6	12.1	7.0	15.4
相知	4.3	5.1	8.4	13.8	18.3	21.6	26.8	27.5	23.3	17.1	11.8	6.9	15.4
前原	5.7	6.1	9.2	13.9	18.2	21.9	26.7	27.4	23.5	17.6	13.0	8.0	16.0
深江	5.6	6.1	8.7	13.5	17.7	21.4	26.3	27.0	23.0	17.0	12.5	7.9	15.6
平均	4.7	5.4	8.5	13.7	18.1	21.5	26.5	27.3	23.3	17.3	12.3	7.3	15.5

(注) 前原, 深江観測所は1941~1970の平均

第3-4表 月間降水量

mm (1961~1970)

観測所 \ 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年間
唐津	84	65	91	152	182	248	240	113	145	101	96	79	1,621
古湯	127	98	152	232	262	415	401	246	187	140	141	94	2,501
七山	113	70	101	158	197	249	316	228	208	127	109	92	1,970
相知	83	59	103	176	173	263	302	174	147	104	112	69	1,766
前原	74	77	100	132	142	282	218	148	230	100	79	82	1,592
深江	76	82	112	157	158	278	256	180	291	128	93	86	1,949
平均	93	75	110	168	186	289	289	182	201	117	105	84	1,900

(注) 前原, 深江観測所は1941~1970の平均

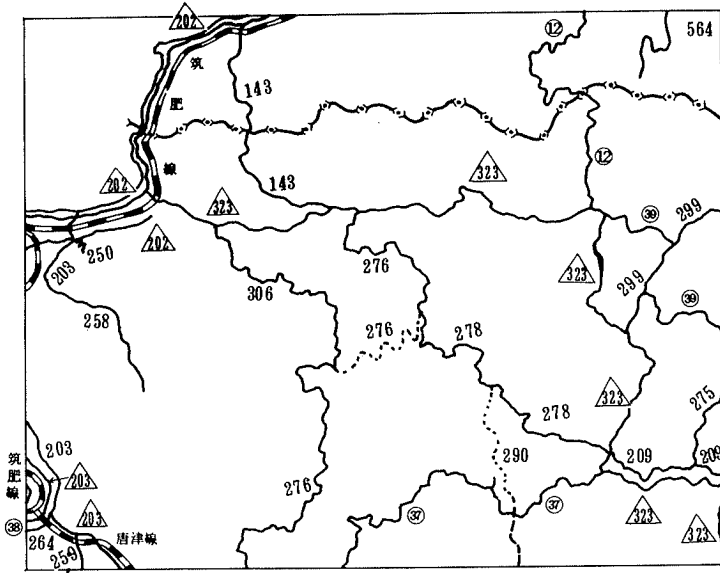
資料: 佐賀地方気象台 福岡管区気象台

# Ⅳ 交 通

本地域の交通体系は、佐賀市と唐津市を結ぶ国鉄唐津線が本図幅の南西部を、又唐津市と福岡市を結ぶ国鉄筑肥線が北西部を走っている。県西北部と福岡を結ぶ筑肥線については福岡市姪ノ浜駅で地下鉄との相互乗入れなどが予定されている。

道路は、国道、主要地方道、一般県道が第2図のとおり整備されている。

**第2図 道路・鉄道現況図**



凡例：一般国道  $\triangle$ No.，主要地方道  $\circ$ No.，一般県道 No.，計画線 -----  
 鉄 道

<p>A 筑肥線    B 唐津線</p> <p>一般国道</p> <p>202号 福岡市～長崎市</p> <p>203号 唐津市～佐賀市</p> <p>323号 佐賀市～浜玉町</p> <p>主要地方道</p> <p>12 前原・富士線</p> <p>37 厳木・富士線</p> <p>38 相知・山内線</p> <p>39 富士・三瀬線</p>	<p>一般県道</p> <p>143 藤川・二丈線</p> <p>203 浜玉・相知線</p> <p>209 広滝・大和・富士線</p> <p>250 鏡山公園線</p> <p>258 半田・鬼塚線</p> <p>259 平山・相知線</p> <p>264 山崎・西相知停車場線</p> <p>275 松尾・湯の原線</p> <p>276 七山・厳木線</p> <p>278 池原・古湯線</p> <p>290 杉山・小城線</p> <p>306 鳥巢・波崎停車場線</p> <p>564 雷山・前原線</p>
--	---

## V 主要産業の概要

### 1. 農 林 業

本地域は、耕地、林野面積が全体の78.3%を占め、そのうち耕地面積は21%と比較的に少ない。

浜玉町、七山村などの山麓では、みかんの栽培がさかんでオレンジ・ベルト地帯を形成し県内生産の4分の1程度を占めている。

また、七山村、厳木町、富士町などの林野率は70%程度と高く県内の主要林業地域を形成しており、森林資源の保続培養と森林生産力の増進を図る必要がある。

### 2. 商 工 業

本地域の商工業は、第7-1表、第7-2表、第8表のとおりである。唐津市は、東松浦地区の経済の中心都市として商工業が発展している。

### 3. 観 光

本地域には、玄海国定公園の中核をなす観光都市唐津市があり、特別名勝虹の松原、鏡山からの玄界灘の景観等、優れた自然資源に恵まれており県内外からの観光客を集めている。

また、本地域内には背振北山、天山、川上・金立、雷山の4つの県立自然公園、及び自然歩道があり、自然の景観に恵まれ、観光、レクリエーション、及び保養の場となっている。

今後は宿泊、レジャー施設などの充実をますます図り、これと有機的に連携できる観光ルートの整備を行う必要がある。

第 5 表 土地利用現況

単位：ha, %

	A		B			C		D				E		
	総面積	農用地		計	B/A	森林	C/A	宅地			その他	E/A		
		田	畑 (果樹園含む)					住宅	工業	その他				
唐津市	12,702	1,910	1,540	3,450	27.1	5,308	41.8	510	37	251	798	6.3	3,146	24.8
多久市	9,716	1,390	1,640	3,030	31.2	3,915	40.3	265	54	252	571	5.9	2,200	22.6
大和町	5,513	884	758	1,640	29.7	2,469	44.8	197	4	30	231	4.2	1,173	21.3
富士町	14,302	872	123	995	6.9	11,311	79.1	72	0	25	97	0.7	1,899	13.3
三瀬村	4,074	353	136	489	12.0	2,919	71.7	25	0	8	33	0.8	633	15.5
小城町	4,529	797	723	1,520	33.6	1,873	41.3	147	9	47	203	4.5	933	20.6
浜玉町	5,213	303	1,340	1,640	31.5	2,284	43.8	100	0	25	125	2.4	1,164	22.3
七山村	6,317	280	718	998	15.8	4,319	68.4	35	0	5	40	0.6	960	15.2
巖木町	6,026	296	489	785	13.0	4,461	74.0	63	8	17	88	1.5	692	11.5
相知町	6,520	680	499	1,180	18.1	4,068	62.4	111	9	36	156	2.4	1,116	17.1
計	74,912	7,765	7,966	15,727	21.0	42,927	57.3	1,525	121	696	2,342	3.1	13,916	18.6
前原町	10,452	2,700	730	3,430	32.8	4,728	45.2	467	6	37	510	4.9	1,784	17.1
二丈町	5,745	875	507	1,382	24.1	3,066	53.4	159	2	46	207	3.6	1,090	19.0
計	16,197	3,575	1,237	4,812	29.7	7,794	48.1	626	8	83	717	4.4	2,874	17.7
合計	91,109	11,340	9,203	20,539	22.5	50,721	55.7	2,151	129	779	3,059	3.4	16,790	18.4

資料：総面積は建設省国土地理院「昭和52年全国都道府県市区町村別面積調」（昭和52年10月1日現在）による。

農用地は佐賀県：第24次佐賀農林水産統計年報

森林は佐賀県：佐賀県民有林資源表（昭和51年度）および営林署

宅地は佐賀県：「昭和53年固定資産の概要調査」

その他は、総面積から農用地、森林および宅地を控除したものである。

福岡県：第24次福岡農林水産統計年報

福岡県：営林署業務資料、地域森林計画書

福岡県：固定資産の概要調査



第 6 表 農業粗生産額及び生産農業所得

単位：100万円，%

	合計 ④ = ⑤+⑥ +⑦+⑧	耕 種 部 門				養 蚕 ⑨	畜 産 部 門					加工 農 産 物 ⑩	⑪ 生 産 農 業 所 得 率 % ⑫/⑬	生 産 農 業 所 得 ⑭	生 産 性		
		米	麦 類	そ の 他	計 ⑮		牛	豚	鶏	そ の 他	計 ⑯				り 農 家 一 戸 当 (千円)	り 耕 地 10 a 当 (千円)	一 人 当 り (千円)
唐 津 市	7,806	1,950	2	3,108	5,060	2	467	518	1,743	16	2,744	-	55.7	4,351	1,739	126	1,181
多 久 市	4,863	1,631	64	2,048	3,743	0	405	123	556	35	1,119	1	59.4	2,890	1,230	95	1,154
大 和 町	3,001	942	42	1,680	2,664	3	245	21	57	8	331	3	67.8	2,036	1,216	124	1,088
富 士 町	1,808	700	1	759	1,460	0	297	42	4	0	343	5	69.0	1,247	1,192	125	790
三 瀬 村	429	256	-	153	409	-	15	-	4	0	19	1	75.8	325	973	67	939
小 城 町	2,593	918	58	1,316	2,292	0	93	167	33	7	300	0	65.4	1,697	1,252	112	1,203
浜 玉 町	3,254	298	-	2,677	2,975	1	57	74	122	25	278	-	66.4	2,160	2,114	132	1,171
七 山 村	1,309	244	-	1,015	1,259	2	40	4	2	2	48	-	68.7	899	1,602	90	760
巖 木 町	1,086	279	1	727	1,007	-	21	20	35	3	79	-	67.3	731	1,171	93	779
相 知 町	1,897	690	23	847	1,560	-	34	271	24	8	337	-	64.8	1,230	1,273	104	1,201
計	28,046	7,908	191	14,330	22,429	8	1,674	1,240	2,580	104	5,598	10	62.6	17,566	13,753	1,068	10,266
前 原 町	6,706	2,911	26	1,576	4,513	0	578	690	737	188	2,193	0	56.3	3,775	1,441	109	1,409
二 丈 町	2,597	925	1	862	1,788	-	45	265	460	39	809	-	57.9	1,503	1,316	109	1,128
計	9,303	3,836	27	2,438	6,301	0	623	955	1,197	227	3,002	0	56.7	5,278	2,757	218	2,537
佐賀県合計	138,072	61,311	5,105	43,643	110,059	87	9,687	5,269	12,144	403	27,503	423	62.5	86,322	1,292	113	1,251
福岡県合計	233,978	92,193	2,434	84,210	178,837	81	10,676	8,874	27,499	5,358	52,407	2,653	60.9	142,523	1,041	119	1,122

資料：第24次 佐賀農林水産統計年報 第24次 福岡農林水産統計年報

第7-1表 地域の工業

単位：ヶ所，人 百万円

	事業所数 (ヶ所)										従業者数 (人)	出荷額等 (百万円)		
	総数	食料品	繊維衣料	木材製品	パルプ紙品	出版印刷	化学等	ゴム皮革等	窯業土石	鉄鋼金属			機械器具	その他
唐津市	276	126	13	38	3	14	1	1	15	3	55	7	5,183	51,130
多久市	96	20	8	17	-	3	2	-	15	3	21	7	2,190	15,651
大和町	23	10	-	1	-	1	1	-	3	-	5	2	611	8,428
富士町	20	4	2	3	-	-	-	3	3	-	3	5	235	1,316
三瀬村	4	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	1	110	183
小城町	57	33	3	7	5	2	1	-	4	-	1	1	1,004	10,407
浜玉町	12	6	1	3	-	-	-	-	-	-	2	-	220	1,532
七山村	4	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	14	12
厳木町	22	4	4	7	-	-	-	1	5	-	-	1	819	3,086
相知町	40	13	5	4	-	1	-	1	8	-	5	3	740	3,933
計	554	218	38	83	8	21	5	3	53	6	92	27	11,126	95,678
前原町	105	17	8	33	-	5	-	1	9	11	7	14	895	4,491
二文町	15	6	1	4	-	-	-	-	1	-	-	3	127	1,167
計	120	23	9	37	-	5	-	1	10	11	7	17	1,022	5,658
佐賀県計	3,455	958	165	515	77	136	40	18	740	282	325	199	68,822	633,402
福岡県計	15,514	3,713	1,026	3,483	297	1,048	194	113	888	1,827	1,747	1,718	323,819	3,873,620

資料：昭和51年 佐賀県の工業

昭和51年 福岡県の工業

第7-2表 地域の商業

単位：ヶ所、人、百万円

	商店数	従業者数	年間販売額
唐津市	1,694	7,624	117,166
多久市	463	1,339	16,184
大和町	243	630	4,658
富士町	95	203	1,511
三瀬村	34	55	267
小城町	268	942	7,497
浜玉町	139	530	5,870
七山村	37	78	760
巖木町	156	343	2,523
相知町	184	439	2,788
計	3,313	12,183	159,224
前原町	501	2,032	20,469
二丈町	140	304	2,336
計	641	2,336	22,805
佐賀県計	15,937	60,561	834,067
福岡県計	77,942	394,847	11,988,946

資料：昭和51年佐賀県の商業 昭和51年福岡県の商業

(注) 飲食店を除く

第 8 表 市町村別産業別就業者数（15歳以上）

単位：人、%

	総 数	第 一 次 産 業				第 二 次 産 業				第 三 次 産 業				分 類 不 能	構 成 比		
		農 業	林 業	水 産 業	計	鉱 業	建 設 業	製 造 業	計	小 卸 売 業	サ ー ビ ス 業	そ の 他	計		第 一 次 産 業	第 二 次 産 業	第 三 次 産 業
唐 津 市	34,750	4,579	15	1,093	5,687	87	3,009	4,463	7,559	8,272	7,841	5,303	21,416	88	16.4	21.8	61.6
多 久 市	12,131	3,148	4	5	3,157	172	1,416	2,322	3,910	1,921	1,867	1,260	5,048	16	26.0	32.2	41.6
大 和 町	7,726	2,498	6	5	2,509	11	657	942	1,610	1,334	1,327	933	3,594	13	32.5	20.8	46.5
富 士 町	3,632	1,987	32	-	2,019	21	252	234	507	314	478	313	1,105	1	55.6	14.0	30.4
三 瀬 村	1,053	506	5	-	511	-	57	117	174	101	165	101	367	1	48.5	16.5	34.9
小 城 町	7,008	1,927	9	3	1,939	11	629	1,074	1,714	1,285	1,286	770	3,341	14	27.7	24.5	47.7
浜 玉 町	4,979	2,150	9	107	2,266	4	402	432	838	770	719	379	1,868	7	45.5	16.8	37.5
七 山 村	1,869	1,356	18	-	1,374	-	112	42	154	116	103	117	336	5	73.5	8.2	18.0
厳 木 町	3,821	1,138	17	4	1,159	8	392	745	1,145	468	569	446	1,503	14	30.3	30.0	39.3
相 知 町	5,098	1,372	17	3	1,392	17	534	1,065	1,616	705	760	615	2,080	10	27.3	31.7	40.8
計	82,067	20,661	132	1,220	22,013	331	7,460	11,436	19,227	15,286	15,115	10,257	40,658	169	26.8	23.4	49.5
前 原 町	16,812	4,335	8	151	4,494	6	1,677	2,095	3,778	3,528	2,860	2,133	8,521	19	26.7	22.5	50.7
二 丈 町	5,270	1,487	9	183	1,679	1	451	660	1,112	1,007	875	597	2,479	-	31.9	22.1	47.0
計	22,082	5,822	17	334	6,173	7	2,128	2,755	4,890	4,535	3,735	2,730	11,000	19	28.0	22.1	49.8
佐 賀 県 計	397,097	93,889	429	8,314	102,632	714	32,475	71,468	104,657	73,305	65,665	49,985	188,955	853	25.8	26.4	47.6
福 岡 県 計	1,916,134	174,530	1,317	15,419	191,266	7,968	206,078	377,297	591,343	468,556	346,943	311,043	1,126,542	6,983	10.0	30.9	58.8

資料：昭和 50 年 国勢調査報告

## Ⅵ 開発の現状と構想

本地域は優れた自然条件を有し、これまで資源の供給や観光、レクリエーション等を通じ、県民の豊かな生活、産業の振興等に大きく寄与してきた。

しかし、山間部においては過疎化の進化、社会資本の立遅れ、自然環境の保全等、多くの問題点を内蔵しており、このため過疎対策、山村振興対策等による対処と相まちながら、各種社会資本を充実し、農林業の振興、観光施設の整備、充実を図る等、地域の自然的条件を踏まえた調和のある開発が必要である。

本図幅内で現在着手されている主な開発事業は次のとおりである。

1. 嘉瀬川ダム
  - 計画期間 48年～60年
  - 総貯水量 64,650千 $m^3$
2. 伊岐佐ダム
  - 計画期間 44年～53年
  - 総貯水量 1,940千 $m^3$
3. 巖木ダム
  - 計画期間 48年～58年
  - 総貯水量 13,600千 $m^3$
4. 国道の改築
5. 九州自然歩道
  - 計画期間 50年～55年
  - 総延長 117 km
6. 農村総合整備モデル事業
  - 計画期間 50年～56年
  - 対象区域 5,200 ha

# 各論

# I 地形分類

「浜崎」図幅では、背振山地がその大半を占めているが、南西隅には隣接図幅に主体をもつ中、小起伏山地の一部が姿を見せている。背振山地の周辺部は丘陵性の地形をしめしていることがあるが、その中で独立性の強いものとして平原、伊岐佐の2丘陵地がある。小規模な河岸段丘が各所に見出されるほか、図幅西部に孤立した鏡山溶岩台地があって、玄海国定公園の展望台の役割を果たしている。図幅北西部では、背振山地が直接海に臨む岩石海岸になっているが、松浦潟、吉井浜低地などの砂洲で境された海岸低地も生じている。

本図幅内の地形区分は次の通りである。

## I 山地

I.1 背振山地                      I.3 日、高地山地

I.2 岸岳山地                      I.4 岩屋山地

## II 丘陵地

II.1 平原丘陵                      II.2 伊岐佐丘陵

## III 台地

III.1 鏡山溶岩台地

## IV 低地

IV.1 吉井浜低地                      IV.3 松浦潟低地

IV.2 長野川低地                      IV.4 松浦川低地

## 1. 山地

### 1-1 背振山地

佐賀県下では最も規模の大きい山地で、本図幅と東隣りの背振山図幅にまたがっている。主峰は背振山図幅の背振山（標高 1055.2 m）で、山地名もその名に由来している。背振山図幅から続く主要分水界は北に偏し、三瀬峠（標高 580 m）から雷山（標高 955.4 m）、長野峠（標高 565 m）、羽金山（標高 900.3 m）、女岳（標高 748 m）、荒谷峠（標高 542 m）、浮嶽（標高 805.2 m）、白木峠（標高 350 m）を経て十防山（標高 535.4 m）に至る佐賀・福岡県境に一致している。また、羽金山から図幅中央部の亀岳（標高 739.9 m）、を経て図幅南端の天山（標高 1046.2 m）北縁をかすめる南北の

分水界は、図幅を中央部で2分し、これより東域は南流して有明海に注ぐ嘉瀬川水系、西域は唐津湾に流下する玉島川と松浦川の両水系にわかれる。

本山地は主として花崗岩類で構成され、北西系および北東系の断層が発達し、河谷もこの断層系に支配されていることが多い。山地の大部分は中起伏山地に区分されるが、北部の浮嶽、雷山周辺、南部の作礼山（標高 887.1 m）および天山周辺は大起伏山地になる。雷山および天山附近は変成岩類で構成され、特に後者は、天山-彦岳（標高 845.3 m）と続く東西方向の直線状の稜線をもち、変成岩類の構造に支配された山容をしめしている。

山地内には、各所に丘陵性の地形が見出される。北山ダム周辺は、背振山図幅に述べた三瀬面（標高 450 ~ 550 m の隆起準平原面）を河川が侵蝕して生じた地形と考えられる。図幅中央部に見出される丘陵地域でも標高 700 m 或いは 600 m 内外の切峯面が見出され、同様な古い隆起準平原地域があったことが考えられる。このような丘陵性の地域は高原状を呈し、河谷の低地も平坦で、檜原湿原はこのような丘陵地域の一部にある。

#### 1-2 岸岳山地

主体は呼子・唐津図幅にある、岸岳（標高 320 m）を中心とする大～中起伏山地の東端部である。主部は古第三紀堆積岩類で構成されているが、東部は花崗岩類で構成されている。

#### 1-3 日、高地山山地

主体は伊万里、武雄図幅にある、日、高地山（標高 288.1 m）を中心とする中～小起伏山地の一部である。古第三紀堆積岩類で構成され、後述の岩屋山地に発達する砂岩の急崖が、ここでも見出され、その壁面に刻まれた石仏（鵜殿窟）がある。

#### 1-4 岩屋山地

武雄図幅内に主体をもつ小起伏山地（同図幅では特に命名せず、10万分の1 佐賀県の地形区分図でよんだ広い松浦山地の一部としてしめた。）で、最高峯でも標高 195.1 m に過ぎない。主として古第三紀堆積岩で構成され、所謂“岩屋砂岩”（芳谷層中部層の一部）の急崖が発達しているが、東北部は花崗岩類で構成されている。



## 2. 丘陵地

### 2-1 平原丘陵

浜玉町平原附近から西方にかけて、狭隘な谷底平野に区切られた小規模な丘陵群が分布している。いずれも花崗岩類で構成され、果樹園として利用されている。この附近には高、低の河岸段丘や、やゝ古い土石流形が発達している。

### 2-2 伊岐佐丘陵

巖木川と伊岐佐川にはさまれた小規模な丘陵（最高点標高 140 m）で、主として花崗岩類で構成されている。

## 3. 台地・段丘

### 3-1 鏡山溶岩台地

最高点標高 283.7 m の溶岩台地で、載頭方錐形の特異な形をもっている。台地面は急崖で囲まれているが、下部は緩傾斜面になり、果樹園に利用されている。急崖より上部が玄武岩、以下は花崗岩類で構成されている。台地面の凹地は溜池に利用されている。

### 3-2 河岸段丘

本図幅内には小規模な河岸段丘が各所に見出される。高低 2 段に区分され、高位面 ( $Gt_1$ ) は比高 10~20m、低位置 ( $Gt_2$ ) は比高数 m 内外で、砂礫層でおおわれているが、高位面の側面には基盤岩が露出していることが多い。高位面は背振山図幅の中位段丘面、低位面は同じく低位段丘面に相当するものと考えられる。高位面のうち、玉島川の谷に臨む一部では軽石火山灰の厚層で構成されているので、火山灰台地（浜玉町柳瀬附近）として表現した。

## 4. 低地

### 4-1 吉井浜低地

吉井浜、福井浜の砂洲で囲まれた潟の埋積された地形をもち、低位段丘を伴っている。低地内には、高位段丘と想定される丘陵が見出される。

### 4-2 長野川低地

羽金山から流下する長野川により作られた狭隘な低地で、発達した河岸段丘を伴っている。

### 4-3 松浦潟低地

虹，松原砂洲で囲まれた潟を玉島川，横田川，松浦川などが埋積して生じた低地で，表層は砂，下部は泥質である。虹，松原砂洲は標高 5 m を僅かにこえる程度の低い砂丘状で，浜玉町の市街地に利用されている部分を除き松林でおゝわれ，特別名勝に指定されて保護育成されている。

#### 4-4 松浦川低地

松浦川とその支流厳木川，伊岐佐川，および半田川などの谷底平野で，山地との境界には小規模な河岸段丘が各所に見出される。唐津市鏡の集落は鏡山西麓に生じた低位段丘面上にある。

#### 参考文献

経済企画庁（1970）：土地分類図「福岡県」

“ （1974）：土地分類図「佐賀県」

佐賀県（1973）：土地分類基本調査「武雄」

“ （1974）： “ 「呼子・唐津」

“ （1975）： “ 「伊万里」

“ （1978）： “ 「背振山」

浦田英夫（1962）：福岡市附近の平担面の地史学的研究；九州大学教養部地学研究報告第 8 号

## II 表層地質

本地質図は「佐賀県の地質と地下資源」（1954年）と、「九州炭田堆積盆地生成の一考察」（1971年）の附図を基図とし、これに近年の調査資料を加えて構成したものである。

本地区の未固結堆積の基盤をなす固結岩石類の殆んどは各種花崗岩類で占められ、この中にルーフペンダント状または捕獲岩状の変成岩類が図幅北部および南縁部に分布している。図幅南西隅には唐津炭田を構成していた古第三紀層が、その一部を見せている。北西系および北東系の断層が発達していて、地形や水系に大きな影響を与えている。

### 1. 変成岩類

三郡変成岩類の一部で、その生成時代は古生代末期と考えられている。東西性の走向と急斜する地層面をもって、図幅北東部および南縁部天山-彦岳附近の分布形にも現われている。

緑色片岩、泥質片岩および結晶質石灰岩に区分して図示したが、北東部の緑色片岩地域は充分調査されていないので、泥質岩・砂質岩を源岩とするものもかなり含まれている可能性がある。

これらの変成岩類は、三郡変成作用時に片理面の発達した剥離性にとむ結晶片岩として形成され、その後花崗岩の貫入による接触変成作用をうけて再結晶し、緑色片岩に透輝石・角閃石・斜長石、泥質片岩は紅柱石・黒雲母・柘榴石・斜長石・石英などより成る縞状組織をもつ、やゝ塊状のホルンフェルスに変わっており、石灰岩は方解石の結晶の集まりである結晶質石灰岩になっている。

### 2. 深成岩類

#### 2-1 蛇紋岩

結晶片岩の形成時に、これら変成岩類中に貫入した橄欖岩の変質したもので、主として蛇紋石で構成される軟かい暗緑色岩である。

#### 2-2 花崗岩類

花崗閃緑岩、黒雲母花崗岩および両雲母花崗岩に区別される。放射性同位元素による地質年代は、いずれも中生代白堊紀中頃をしめしている。

花崗閃緑岩は、神埼（又は糸島）花崗閃緑岩と相知花崗閃緑岩に区別され

ていて、後者は本図幅では南西部の相知町田頭附近にのみ分布している。神埼花崗閃緑岩は粗粒で、角閃石・黒雲母・長石・石英のほか、肉眼で認められるチタン石を伴い、角閃石や黒雲母が面状の配列性をしめしている。相知花崗閃緑岩は中粒で、前者に比して角閃石／黒雲母の比が大きい塊状の岩石である。

黒雲母花崗岩は東松浦（又は深江）花崗岩とよばれているもので、中粒、黒雲母・長石・石英のほか、時にはチタン石の小晶が認められることがある。明瞭ではないが、黒雲母に面状配列性がある。

両雲母花崗岩は佐賀花崗岩とよばれているもので、細粒及至中粒、黒雲母・白雲母・長石・石英のほか、石榴石の小晶を伴うことがある。比較的小さい岩体で他の花崗岩、変成岩中に貫入していることがある。

### 3. 固結堆積物

古第三紀相知層群に属する芳谷層の上・中・下の各部層が地表に分布している。下部層は細粒白色砂岩と泥岩の互層で、本図幅南西端の相知町久保附近に僅かに見出される。中部層および上部層は主として白色中粒砂岩で構成され、泥岩および石炭を挟んでいるが、本図幅では砂岩として表現した。中部層の主体は厚い塊状中粒砂岩で、“岩屋砂岩”とよばれ、急崖を作っていることが多い。

### 4. 火山性岩石

#### 4-1 玄武岩

鏡山溶岩台地面を作る橄欖石玄武岩の溶岩流である。鏡山の山体の大半は花崗閃緑岩で構成されているが、玄武岩溶岩流の下には、うすい凝灰岩層と砂礫層をはさんでいる。

#### 4-2 ロームおよび火山灰

浮石を含む暗褐色火山灰で、角閃石と紫蘇輝石を特徴的に含んでいる。玉島川沿いの浜玉町柳瀬附近には厚さ5 m以上の厚層が見出される。

背振山図幅の中位段丘面以上に見出されるローム層は、本図幅内では明らかではない。

## 5. 未固結堆積物

### 5-1 砂礫（洪積世）

高位および低位の段丘面上にのる砂礫層で、高位面上のものは極めてうすいことが多い。

### 5-2 砂礫（沖積世）

谷底平野を作るもので、河川の勾配に従って、礫質の場合と砂質の場合がある。

### 5-3 砂（沖積世）

虹，松原，吉井浜などの砂洲を構成する場合と，埋積された松浦潟低地表層を構成するものを一括した。後者の場合，砂層の下位に海成の泥層が分布していることが，試錐によりわかっている。

### 5-4 泥（沖積世）

砂洲で海と境された吉井浜低地の表層部を構成している。

### 5-5 碎屑物（沖積世）

土石流堆積物と考えられるもので，転石を含み淘汰不良である。河川による侵蝕をうけて段丘状の地形をしめす場合があり，洪積世末に入る古いものもあるかと思われる。

## 参考文献

佐賀県（1954）：佐賀県の地質と地下資源。

松下久道（1971）：九州炭田堆積盆地生成の一考察。松下久道教授記念論文集

### Ⅲ 土 壤

#### 1. 山地丘陵の土壤

山地丘陵の土壤は、気候条件および地形的な開析度合、緩急度合の大小と、地質的な基岩の相違に伴って大局的に変化し、更に谷筋、中腹、尾根筋といった微地形変化に対応して、微細な変化を示している。

本地域の山地と丘陵は、主として西北西から東南東方向に走る数本の断層と、これらに直交して北北東から南南西方向に走る数多くの断層とによって分割され、500 mから1,000 mの頂きを有する大小、高低の地壘によって構成されている。このなかにあつて背振山から雷山(955 m)、羽金山(900 m)、浮岳(805 m)を東西に結ぶ山地は、山脈形状の構成をなして、本図幅の北側、玄界灘に面して走り、南側の天山(1,046 m)、彦岳(845 m)山地と共に主稜線を形成している。

背振-雷山-浮岳山脈の北側と、天山、作礼山(887 m)、三方山(505 m)山地の南西部、椿山(740 m)の西部、古湯、彦岳周辺部は、比較的起伏の大きな開析山地の様相を呈して、礫質ないしは粗砂質の、やゝ粗造な堆積を示す土壤が分布しているのに対して、その間を占める大部分の地壘山地は、高原状の緩起伏地形を示して、風化が進み、やゝ粘土含量の多い土壤によって覆われている。緩斜面では褐色の火山灰の遺存率が高く、更にその上を覆って細土の含量をましている。

開析斜面の下辺、平野部の周辺には丘陵地が介在し、風化が進み粘土化した赤色土の分布を見る。

本図幅の右上、雷山の北東部と、図幅の下縁、天山、彦岳付近に結晶片岩類、図幅の左下端、松浦川の西南部に三紀の堆積岩、唐津市に近い鏡山の山頂に玄武岩が出現する以外は広く深層風化の進んだ花崗岩類によって占められており結晶片岩地帯では、花崗岩よりも粘土含量と角礫量(急斜面)が相対的に多い土壤が、三紀層では、埴質、玄武岩上では火山灰質の土壤が分布している。主体を占める花崗岩土壤の分布特性は開析急斜面で粗粒、粗造な堆積(基岩が浅く出る)を示すが、緩小起伏を示す大部分の地形では粘土含量も高く、深く、やや密な土壤堆積をみせている。低海拔の丘陵地の尾根筋では赤褐色系の乾性褐色

森林土壌が、山地の尾根筋では黄褐色の乾性褐色森林土壌が出現しているのに対して、山地の谷筋近くには、やゝ湿性の褐色森林土壌をみることが多いが局部的であり、大部分の斜面は、適潤性の黄褐色褐色森林土壌の分布区となっている。

雷山——浮岳山脈の北面は、北西の強風の常襲地帯となっており、降水量に恵まれているにもかかわらず、尾根筋とその周辺に乾性土壌の分布をみることが多い。

### 1-1 岩石地

巨岩が露出して周囲が急崖となり、造林不能地となっているところで、本図幅ではその典型的なものとして、相知町和田の鶴殿窟周辺を図示した。第三紀砂岩からなる標高約60 mの山頂部等の緩斜面には矮性のアカマツ、クロキ、タブノキ、リョウブなどを上木として、ウラジロ、コシダが林床に密生している。従って粗腐植層は10 cm程度と厚いが、その下は厚さ1~3 cmのB層となっており、土層の薄い未熟土の性格を呈している。

### 1-2 砂丘未熟土壌

松浦川や玉島川河口などの玄界灘沿に分布する花崗岩を母材とした海浜の砂地で、内陸部程微砂質でA層も厚くなっているが、つぎの1統にまとめた。

#### 玄海統 (Gen)

クロマツが帯状に白砂青松の美観を呈し、国定公園の主要な構成要素となっている虹の松原周辺に分布する。孔隙に富む均一な砂土で、深さ30 cm以上の下層土は頗る軟(2~4 cm)で根系も比較的深くまで均一に分布する。

### 1-3 石炭鉍滓堆積未熟土壌

本図幅南面部の第三紀層地域に一部分布する。防災上の配慮から切削されて台地上を呈したり、産炭地振興工業用地として利用されるなど、ピラミッド型を呈してボタ山と呼ばれた従来の景観はない。生ボタといわれる不良炭や礫、頁岩、焼きボタなどが混在し、自然土層への土壌化は極めて未熟で、つぎの1統にまとめた。

#### ボタ統 (Bot)

生ボタの場合には一般に風化されやすく、重粘土となり、下層土は水分に富む。焼ボタの場合、上層土は膨軟な砂壤土であるが下層土が未風化の赤褐色

の礫土であるため、通気透水性に富み前者に比して乾性となっている。クロマツやモリシマアカシアなどが植栽されシャシャンボ、ネジキ、コシダ、ススキなどが生育しているが、ことに生ボタの場合、下層土上部に菌糸がみられるなど、土壌の物理性、化学性が不安定で埋立用土や工場敷地などとして利用されている。

#### 1-4 黒ボク土壌

特徴層位の色相が明度 1.7、彩度 1 の適潤性土壌で、つぎの 1 統にまとめたが、この黒ボク土については、特徴層位が 10 cm 程度と薄かったり、埋没土として出現する場合は一般に局所的で図示していない。

#### 奥山 3 統 (Oku 3)

洪積層あるいは土石流堆積物地域に付随し、勾配が 20 度以下の緩傾斜地に局所的に出現する。下層土は粘質でち密となり堅い場合が多く、スギの生育はやゝ劣るようであり、笹が密生して原野あるいは未立木地として放置しているところもある。

#### 1-5 乾性褐色森林土壌 (赤褐色系)

下層土 (C 層, BC 層) が 5 YR の色調を呈する土壌で、台地の上面や、丘陵地、低山の残積土面に出現する。山地での分布は局所的であるため、分布図上には表現していない。

#### 宗像 1 統 (Muki)

台地状ないしは山麓状地の凸部上面や、丘陵地の尾根筋に出現する。風化の歴史の古い土壌であるため、土層の粘土化が著しい。ち密な堆積を示し、保水力に富むが、通気透水性に乏しく、自然土壌としての生産性は低い。

#### 1-6 乾性褐色森林土壌 (黄褐色系)

山地丘陵の尾根筋 (主として残積土面) と、その周辺に出現する傾乾性土壌であるが、赤褐色系土壌ほど乾性は強くない。下層土の色調が 7.5 YR を呈するものが多い。

#### 金山統 (Kay)

主として花崗岩山地の尾根筋周辺に見出される残積性の土壌である。粘土分に富み、保水性強く、加えて降水量の多い山地に分布するため、必ずしも乾性の土壌構造は顕著でないが、風当たりが強く蒸発散が大きいいためか、樹木



に対しては、生育不良の乾性環境を形成している。

### 1-7 褐色森林土壌（赤褐系）

下層土が 7.5 YR の色相より赤味を帯び、暗赤色土壌の色調からはずれる主として残積性の適潤性土壌で、つぎの 1 統として区分した。

#### 鹿島 2 統（Kas 2）

洪積世の土石流堆積物を母材として、平坦からやや凸地形の緩斜面を呈する山麓部に分布する。下層土は埴壤土でやや堅密となっており、表層土の発達は不良である。主にヒノキ造林となっているがその生育は不良で、黒ボクに類似する場合は表層が堅く、天然のアカマツが生成し、また原野として利用されている例もある。

### 1-8 褐色森林土壌（黄褐系）

山腹の急斜面や急峻斜面、一部凸形の尾根型斜面や凹形の谷型斜面にも分布する匍行土タイプの土壌である。下層土の色調が 7.5 YR を呈するものが多い。

#### 背振 1 統（Seh 1）

尾根筋から中腹にかけて出現する偏乾性の土壌である。深層風化をうけた厚い残積性の花崗岩を母材とした砂質壤土である。そのため腐植混入層（A 層、B 層）も適度に発達しているが、水分の蒸発散量が比較的多い地形環境下にあるため、生産性は余り高くなく、主としてヒノキの造林地となっている。（神埼統）

#### 糸島 1 統（Its 1）

比較的厚く、粗孔隙に富む A 層、B 層を保有する急斜面上の花崗岩土壌である。水分環境としては適潤性のものが多く、スギ、ヒノキ経済林の中等地を形成する。山地の中腹から上腹にかけて広く分布する。なお、急峻斜面上には、この統よりも土層の薄い糸島 3 統が分布するが、局所的であるため、図示しなかった。

#### 筑紫 1 統（Chs 1）

腐植混入層（A・B 層）の発達が良好で、粗孔隙に富む、結晶片岩山地の適潤性土壌である。花崗岩性の糸島 1 統にくらべて石礫率が高いものが多いが、粘土含量も高く保水性が強い。必ずしも水分に恵まれておらず、スギ、

ヒノキの中等林地を形成している（嬉野統）

### 筑紫 3 統（Chs 3）

結晶片岩山地の急峻斜面に分布し、石礫が多く孔隙に富む土壤が多い。腐植混入層（A層～B層）は筑紫 1 統よりも薄く、林木の生育は筑紫 1 統に劣っている。

#### 1-9 褐色森林土壤

起伏量の大きな山岳地の凹斜面（堆積面）や、山地丘陵の谷筋堆積面に出現する土壤である。水分に恵まれスギ林の適地となっている個所が多い。

#### 嘉穂統（Kah）

花崗岩山地の崩積土斜面および谷沿いの土石流堆積面に分布する土壤で、他の堆積区分の土壤よりも大礫を含むものが多い。粗孔隙に富む厚いA層、B層を保有し、水分にも恵まれて自然地力の豊かな土壤環境を形成している。

#### 企救統（Kik）

結晶片岩山地の崩積土斜面に分布し、石礫質で粗孔隙に富む土壤である。A層、B層は厚く、細土にも富み水分にも恵まれた良好な土壤となっている。

#### 1-10 湿性褐色森林土壤

起伏の大きな山地内の溪間土石流の堆積面に分布する主としてB E型、B F型土壤、一部グライ土壤でつぎの1統にまとめた。

#### 頂吉統（Kag）

石礫に富む微砂質壤土で、A層およびB層の発達は良好で、スギ林の適地を形成しているが、緩傾斜地ではときに密な堆積土層となって過湿な様相を呈する場合もある。（肥前統）

九州大学農学部 竹下敬司

佐賀県林業試験場 実松敬行

## 2. 山地、丘陵、低地の土壤（農地土壤）

農地土壤の分類は、地力保全基本調査による「畑地および水田土壤生産性分類図」を基図とし、後述の文献類、近年の各種調査及び今回の調査資料を加えて構成した。土壤区分にあたっては「土壤統の設定基準および土壤統一覧表第2次案、農林省農業技術研究所化学部土壤第3科、昭和52年2月発行」の分類基準によって県内土壤統の再分割や統合をおこない、全国統一土壤統名で図化したものである。

土壤の分布と関連の深い地形、地質について概観すれば、図幅のほとんどが背振山地で占められ、北部には東隣の「背振山」図幅から雷山(955.4m)、羽金山(900.3m)を経て十防山(535.4m)にいたる背振北部山地が福岡、佐賀両県を境する分水界をなし、南部には彦岳(845.3m)、天山(1046.2m)、作礼山(887.1m)を主峰とする背振南部山地が東西に走り、この両者を南北に配して図中央部は高原状の緩起伏地形を示して背振中部山地となっている。これら山地の地質は主として花崗岩であり、雷山および天山付近に緑色片岩が認められる。残積性の農地土壤の性状と地形、地質との関連をみると、前述の林地土壤の場合と同様な傾向がうかがわれる。また、嘉瀬川、松浦川、玉島川、福吉川、その他の河川沿いに山間地から低地にかけて沖積層が分布し、おもな平坦沖積地としては松浦川下流低地の一部がみられるに過ぎない。図幅西部の山麓、丘陵地の一部に洪積層、第三紀層、玄武岩が分布している。

福岡県側では急傾斜の山地が多く、地質はほとんど花崗岩からなり、一部に古生層結晶片岩がある。長野川、一貴山川、佐波川、福吉川の小河川はいずれも北東流し、それらのせまい谷間の扇状地は水田として利用されている。

扇状地及び谷底平野は灰色低地土壤で、山ぞいの台地及び山地の緩傾斜地水田は中粗粒質黄色土壤である。水稻のほか一部で花(りんどう)が栽培されている。水稻の収量はやや低い品質はよい。

西部の二丈町福吉の山麓や低山地にはみかん園が広く分布し隣接する佐賀浜玉みかん産地と比肩する糸島みかんの産地である。早生温州が主で、海岸線から遠い地区や標高の高いところでは甘夏など晩柑類が栽培されている。花崗岩の風化物を母材とする中粗粒質の褐色森林土壤と黄色土壤が分布している。

佐賀県側では西部の松浦川下流低地を除けば、図幅のほとんどが背振山地で占められ、これをさらに標高約400mで区分すると、南部の天山(1046.2m)作礼山(887.1m)付近から中部の厳木、浜玉、富士、七山の町村界分水嶺付近を含めて北部県境にいたる標高約400~1,000mの高地地域と図幅東部及び西部の400m以下の地域に大別される。前者の高地地域は図幅内佐賀県域面積の半ば以上を占め、その大半は林地として利用され、農耕地の占める割合は少ない。農地は高冷地のため水田が主で、ほかに数団地の牧草地と小面積の菜園があり、近年高冷地を菜園地が造成されつつある。

これら農地の地質はほとんど花崗岩で、変成岩の分布は少ない。傾斜地には残積性の中粗粒黄色土壌や礫質黄色土壌が多く、ついで細粒黄色土壌があり、谷底低地や凹地には水積性の礫質灰色低地土壌、細粒灰色低地土壌、中粗粒灰色低地土壌、礫質強グライ土壌、中粗粒グライ土壌などの土壌統群が分布している。水稻の収量は土壌条件のほか高冷地の影響もあり、やや低いが品質は良好である。

図幅の東部には富士町全域の流水を集め、なおかつ北山ダムを擁する嘉瀬川が佐賀平野へ注いでいる。樹枝状に発達する多数の支流沿いや、その周辺山腹傾斜地に水田が分布し、標高は約100～400 mに及んでいる。東部の農地は水田が主体をなし、畑樹園地は少ない。

これら農地の地質および土壌は前述の高地部とはほぼ同様であり、水稻の収量はやや低いが米質は良い。なお、水田の畑利用によるそ菜栽培が散見される。

背振山地西端の浜玉町、七山村の標高約300 m以下の山麓地では温州みかんの栽培が盛んで、水田からの転換園も含み佐賀浜玉みかんの生産団地を形成し、県内でも有数の産地をなしている。

地質はほとんど花崗岩からなり、このほか玄武岩（鏡山山頂部）、第三紀層（相知町の一部）、洪積層などが分布している。樹園地では残積性の中粗粒黄色土壌がもっとも広く、次いで礫質黄色土壌、細粒黄色土壌があり、中粗粒褐色低地土壌や細粒赤色土壌が小面積に分布している。水田では山麓地河川沿いの緩傾斜地に礫質褐色低地土壌、山腹傾斜地に中粗粒黄色土壌や礫質黄色土壌などが分布している。

松浦川下流低地は松浦川、玉島川、半田川の沖積堆積物からなる平坦地で稲作のほか施設そ菜園芸もおこなわれている。この地域には中粗粒灰色低地土壌や礫質灰色低地土壌、中粗粒グライ土壌や礫質強グライ土壌及び黒泥土壌、細粒灰色低地土壌などが分布している。

農地土壌を23土壌統群、32土壌統に区分したが、その概要は次のとおりである。

## 2-1 表層腐植質黒ボク土壌

**概 統：**非固結火成岩（火山灰）が堆積した土壌で表層は腐植質である。酸化沈積物、礫層はともに有せず、土性が表土は粘質、次層が壤質の黄色土

壤であり、山地緩傾斜面に分布し普通畑として利用され、面積はきわめて小さい。

## 2-2 中粗粒褐色森林土壌

**裏谷統**：花崗岩を母材とする尾根や中腹の残積性土壌で黄褐色を呈し、果樹園となっている。表層に腐植層はなく、土性は壤質で有効土層はやや深い。

**東谷統**：花崗岩を母材とする山麓の崩積面にあり、土性は壤質で下層土は礫に富む場合が多い。果樹園である。

## 2-3 細粒赤色土壌

**唐原統**：低山地の鞍部、緩傾斜の安定面に分布し、玄武岩を母材とする強粘質のち密な赤色土壌で樹園地として利用されている。鏡山の上部に分布する。

## 2-4 細粒黄色土壌

**赤山統**：起伏量の小さい低山地の尾根筋とその周辺あるいは山地の一部に分布する残積土壌で下層土は赤味のある黄色で粘度含有量がやや高く、果樹園や畑地として利用されている。

## 2-5 中粗粒黄色土壌

**大代統**：花崗岩の風化物（マサ土）を母材とする残積土壌で、土性は壤質～壤質砂土で保肥力に乏しく、有効土層はかなり深い。本図幅農地の土壌統では最大の面積を占め、浜玉町、七山村を主体に分布し果樹園として利用されている。

## 2-6 礫質黄色土壌

**形上統**：深さ30～60 cmから礫層が出現する粘質～強粘質の残積土壌で、火成岩の風化物を母材とするものが多い。土壌生産力はやや低く、主として樹園地である。

**岩子島統**：固結火成岩（主として花崗岩）の風化物を母材とする残積性の黄色土壌で、土性は砂質、斑紋結核がなく、深さ30～60 cm以下に花崗岩に由来する砂礫層を有し、保肥力、保水力ともに小さい。大代統に類似するが、本統がより粗粒質である。果樹園として利用されている。

## 2-7 細粒黄色土壌，斑紋あり

**北多久統**：洪積世堆積または残積性の黄褐色強粘質の土壌で、礫層はなく、

マンガンの点状結核を有し、下層土は一般にち密である。水田として利用され生産力は中程度であるが、中粗粒質土壌の多い山間地水田地帯では優良田と目されている。

**新野統**：主として花崗岩の風化物を母材とする残積性または洪積世堆積物に由来する黄褐色粘質土壌で、マンガンの点状結核を有する水田土壌で、生産力は中程度である。

## 2-8 中粗粒黄色土壌，斑紋あり

**都志見統**：主として花崗岩の風化物を母材とする残積性の黄褐色壤質土壌で、斑紋を有する。水田として利用され生産力はやや低い。

## 2-9 礫質黄色土壌，斑紋あり

**土佐山統**：主として花崗岩の風化物を母材とする残積性の黄褐色土壌で、土性は壤質～砂質である。深さ 30～60 cm から礫層または砂礫層が出現する。水田として利用され、水稻生産力はやや低い。

**風透統**：深さ 30 cm 以内から礫層または岩盤が出現する残積性の黄色土壌で、土性は壤質～強粘質，水田として利用され、生産力は概して低い。

## 2-10 中粗粒褐色低地土壌，斑紋なし

**飯島統**：非固結堆積岩を母材とする水積土壌で一般的には自然堤防などに分布するが、本図幅では鏡山西側の平坦低地で、灰色低地土よりやや高い地形面に分布しており、表土は暗褐色，次層以下は黄褐色を呈し砂質土壌で、斑紋がなく、通気透水性は一般に良好である。普通畑として利用されている。なお、鏡山北部のグライ土壌の水田地帯に人為的に造成された壤質～砂質の黄褐色土壌からなる施設園芸地帯の土壌も本土壌統に包括した。

## 2-11 中粗粒褐色低地土壌，斑紋あり

**荻野統**：非固結堆積岩（主として花崗岩風化物の河成堆積物）を母材とする水積性の黄褐色壤質土壌で、斑紋はあり，マンガン結核はない。保肥力は小さく，透水性はやや良。一部，崩積性の土壌も含まれるが，主体は褐色低地土とみられる。水田からの転換みかん園である。

## 2-12 礫質褐色低地土壌，斑紋あり

**八口統**：非固結堆積岩（主として花崗岩の風化物）を母材とする水積性の黄褐色土壌で、深さ 30～60 cm 以下に砂礫層を有し、土性は壤質～砂質で

ある。保肥力が小さく、秋落的性格を有する水田土壌である。

## 2-13 細粒灰色低地土壌，灰色系

**佐賀統**：ほぼ全層が灰色を呈する水積性の強粘質土壌でマンガンの点状結核を有する。有効土層が厚く、保肥力が大で土壌養分にも恵まれ、水稻収量は極めて高く、かつ安定している。ただし、通気透水性が不良で特に畑作の場合は排水に留意する必要がある。

**鴨島統**：ほぼ全層が灰色を呈する水積性の粘質水田土壌で、斑紋は有するが、マンガン結核を有しない。おおむね谷底低地に分布し、水稻生産力は中程度である。

**宝田統**：ほぼ全層が灰色を呈する水積性の粘質土壌で、マンガンの点状結核を有する。平坦低地に分布し、水田として利用され生産力は中程度である。

## 2-14 中粗粒灰色低地土壌，灰色系

**加茂統**：ほぼ全層が灰色を呈する水積性の水田土壌で、土性は壤質、斑紋は有するが、マンガン結核を有しない。平坦低地や谷底平野地形で排水条件のやや悪い所に分布する。水稻生産力はやや低い。

**清武統**：ほぼ全層が灰色を呈する水積性の水田土壌で、土性は壤質、斑紋およびマンガン結核を有する。水稻生産力は中程度である。

## 2-15 礫質灰色低地土壌，灰色系

**追子野木統**：深さ30～60cmから礫層または砂層が出現し、土色が灰色を呈する水積性の土壌で、土性は壤質～砂質である。河川沿いの旧河道などの沖積地に分布し、水田として利用され、秋落型水田で水稻の生産力は低い。

**国領統**：深さ30cm以内から礫層または砂層が出現し、土色が灰色を呈する水積性の土壌で、谷底低地や河川沿いに分布する。土性は必ずしも粗粒質ではなく、粘質、壤質の場合もある。水稻生産力はやや低い。

## 2-16 細粒灰色低地土壌，灰褐色系

**金田統**：水積性の灰褐色粘質土壌で、斑紋はあるが、マンガン結核を有せず、排水はやや良いが、本図幅では浜玉町低地部の水田から転換されたみかん園が本土壌統に該当するため、樹園地としては、なお排水対策に留意する必要がある。

**多多良統**：水積性の灰褐色粘質土壤で、沖積面の微高地に分布し、斑紋およびマンガン結核がある。水田として利用され生産力はやや高い。排水は良く、裏作等の導入は容易である。

## 2-17 中粗粒灰色低地土壤，灰褐色系

**安来統**：水積性の灰褐色壤質土壤で、礫層、グライ層等を有せず多多良統に類似するが、土性が壤質で、マンガン結核を有しない点で異なる。水田として利用されている。

## 2-18 礫質灰色低地土壤，灰褐色系

**松本統**：水積性の灰褐色土壤で、深さ 30 cm 以下が砂礫層で、漏水防止のための床じめ層がみられる。土性は壤質で斑紋があり、水田として利用され生産力はやや低い。山間傾斜地の棚田に分布する。

## 2-19 灰色低地土壤，下層有機質

**久米統**：深さ 50～80 cm に黒泥層を有し、その上の土層は灰色～灰褐色を呈する水積性の壤質土壤である。平坦低地に局部的に分布し、水田として利用され、生産力はやや低い。

## 2-20 中粗粒強グライ土壤

**芝井統**：グライ層が作土直下から出現する強グライ土壤で、地形的に排水不良な所に分布する水積性の壤質土壤である。水田として利用され、水稻の生産力は概して低い。

## 2-21 礫質強グライ土壤

**水上統**：作土直下よりグライ層を有する強グライ土壤で、土性は壤質～砂質、深さ 30～60 cm 以下より砂礫層を有する。浜玉町低地や一部山間地に分布し、地形的に排水が悪い所である。水田として利用されている。

## 2-22 中粗粒グライ土壤

**新山統**：深さ 50～80 cm 程度でグライ層が出現する水積性の壤質土壤で、斑紋はあるが、マンガン結核を有しない。排水の悪い谷底低地や平坦低地に分布し、水田として利用され、生産力はやや低い。

## 2-23 黒泥土壤

**烏帽子統**：深さ 50 cm 以内に黒泥層を有し、その下部に連続した泥炭層を有する土壤で、土性は壤質～砂質である。本図幅では土性が粘質の井川統に



属する土壤が混在するが、中粗粒質土壤が主体をなす松浦低地に分布するため、本土壤統に包括して図化した。

(佐賀農試 木原唯幸)

(福岡園試 松井正徳)

## 文 献

農林省農業技術研究所(1977):土壤統の設定基準および土壤統一覧表第2次案

佐賀県農試(1965):土壤生産性分級図,佐賀県松浦山麓地域(唐津市)

同上(1968):水田および畑地土壤生産性分級図,佐賀県松浦山麓背振山間地域(厳木町,相知町,北波多村,浜玉町,七山村)

同上(1971):水田および畑地土壤生産性分級図,佐賀県北部山間山麓地域(大和町,富士町)

同上(1962,1967,1969):昭和36年,41年,43年度地力保全基本調査成績書

経済企画庁(1974):土地分類図41佐賀県 $\frac{1}{40}$ 万

福岡県(1962):福岡県水田土壤図

経済企画庁(1970):土地分類図40福岡県 $\frac{1}{20}$ 万

福岡県農試(1970,1971):昭和45年,46年度地力保全基本調査成績書

同上(1972):水田および畑地土壤生産性分級図筑前西部地区(前原町,二丈町)

## IV 傾斜区分

佐賀県と福岡県の県境をなす背振山地は、北部、中部、南部の3山地にわけることができる。

図幅の北部に東西に連なる北部山地は県境をなす背梁山地で東より雷山(955 m)、羽金山(900 m)、浮嶽(805 m)などが連なっている。

雷山、羽金山の福岡県側前原町では傾斜 $S_5$ が広く分布しているが、特に雷山の北斜面、瑞梅寺川上流の傾斜は $S_6$ の急崖が広がっている。雷山に源を発する雷山川は上流部の両岸傾斜は $S_5$ であるが、下流になるにつれて $S_3$ となる。長野川の上流部も傾斜 $S_5$ であるが別処附近から $S_2$ に変化する。羽金山より浮嶽に至る県境山地の両斜面は $S_3 \sim S_5$ の傾斜が広く分布しているが、北側斜面を貴山川が深くえぐり両岸の傾斜 $S_5$ の急斜面をなして北へ流れている。加茂川、福吉川の上流部は両岸の傾斜は $S_3$ と緩であり、福吉川では下流の中村附近より平坦地になる。浮嶽十防山の頂上附近は急傾斜で $S_6$ であり、浮嶽の北側斜面は $S_5 \sim S_2$ と次第に緩となっている。

十防山の北、西側斜面は $S_5$ でありそのまま海岸まで続いている。

背梁山地より南側の佐賀県富士町、神水川上流部と川頭川までの斜面傾斜は $S_5$ が大半であるが、これを切って上無津呂川が両岸傾斜 $S_3$ で南に流れている。神水川の中流部両岸は $S_6$ と崖になっている。玉島川は東から西に流れて玄界灘に注ぐが、右岸側斜面は $S_4 \sim S_5$ が多いが、これを切って野井原川、樽門川、狩川、谷口川、金草川が北から南に流れ傾斜 $S_2 \sim S_3$ の谷底低地を作っている。特に女岳、浮嶽、の南斜面は傾斜 $S_4$ が広く分布している。

神水川、川頭川、および玉島川より以南で、彦岳、天山、作礼山を連ねる、線以北の地域は背振山地の中部山地と呼ばれるが、ここは準平原遺物と考えられており、特に北山ダム西側および南側の上関屋、関屋附近では傾斜 $S_4$ が広く分布し、これを河川が掌状に洗掘し谷底平坦を作っている。西方の亀岳(740 m)、白石山(794 m)附近の小起伏山地は標高700~800 mの平坦部であり、傾斜 $S_4$ が広く分布している。更に西側の椿山(770 m)附近にも同様な地形がみられる。この中部山地平坦面の西側は急斜面 $S_5 \sim S_6$ となって鏡山(284 m)とその東側の丘陵地に続く。丘陵地の傾斜は $S_4$ 位であり、その下には松浦川、玉島

川河口平野が広がっている。

南部山地は東より彦岳(845 m)、天山(1,046 m)、作礼山(887 m)が連なり東西方向にのびる大起伏山地で、頂山附近はいずれも傾斜  $S_6$  の急斜面である。松浦川の支流厳木川は椿山溜池に源を発し北より南に流れ厳木町下田で、この山地を横切り両岸は  $S_6$  の急崖をなして流下している。

(佐賀大学 渡辺 潔)

## V 水系・谷密度

当図幅の水系は、図幅の北部を福岡県と佐賀県の県境に沿って、ほぼ東から西に流れて玄界灘に注ぐ玉島川水系と、図幅の東部を北から南に流下する嘉瀬川水系と、図幅の南部を東より西に流れる松浦川水系に大別することができる。この他、福岡県側には県境より北に流れて玄界灘に注ぐ、貴山川、長野川、雷山川、瑞梅寺川水系がある。

玉島川は佐賀県東松浦郡七山村の福岡県境荒川峠附近にその源を発し南流して細川、馬川川と合流し、馬川附近で向を西にかえて西流し、次に県境の南斜、を南流する野井原川と、さらに滝川附近において滝川、仁部川と合流しながら西流し樽門川、狩川川、小川、谷口川、金草川、横田川の水を集めて玄界灘に注いでいる。

玉島川の流域面積は 93  $km^2$  で幹線流路延長は 16  $km$  で 2 級水系に指定されている。玉島川水系は花崗岩地帯であり地形は急峻である。佐賀花崗岩に比べて細砂の流出はないが、大規模の崩壊が多く土石流を起すことがあり支川の上流は砂防指定区間でもある。本川は河積も広く洪水の流下能力は高い。また水量も豊富で水質もよく飲料水に適している。水系の上流部は保安林であるが、水系に沿った狭い平坦面と河口附近では水田となり、その他の丘陵面は殆んど密柑の植生が行なわれている。なお本川には玉島、小郷谷ダムがあり、これにより玉島発電所が 1 ヶ所設けられている。

嘉瀬川はその源を佐賀県神埼郡三瀬村の背振山系に発し、北山ダムや山間部を流下し川頭川、上無津呂川、麻那古川、浦川、大串川、栗並川の水を集めた貝野川とついで渡瀬川、綿打川、鎌原川の水を集めた天山山系から流下する天河川と古湯附近で合流しさらに東に流れ井出道川、熊川川、太田川、小副川川の水を集めさらに三反田附近で名尾川と合流し今度は南に向を変えて南流し山留川の水を集め下流の大和町において佐賀平野に出て有明海に注ぐ。

その流域は佐賀市、神埼郡、佐賀郡、小城郡の 1 市 3 郡にまたがり、面積 368  $km^2$  (山地 251.2  $km^2$ 、平地 116.8  $km^2$ ) で県下第 4 位の 1 級河川である。

流域の形状は山地部と平地部に 2 分され、当図幅は山地部に属するが、山地部は古湯を中心としておおそ円形をなしている。平地部は佐賀市大和町川上を元点としてはば扇形に広がっている。

地質は上流山地部では花崗岩地帯であり、山崩れ、がけ崩れが多く洪水とともに下流に流下し、下流は砂の生産源となっている。

植生は上流部の北山ダム附近は保安林であり、中流部以下は針葉樹を主体とした雑木林が多い。

河川の利用については農業用水として約 13,600 ha におよぶ耕地かんがいに利用される他、水力発電としては明治 42 年に建設された川上第 1 発電所をはじめとして現在 8ヶ所の発電所により総最大出力約 43,000 Kw の電力の供給が行なわれている。治水事業としては昭和 24 年、28 年、38 年の洪水があり、近年流域の開発が著しいため、これらにかんがみ下流部は大規模な河川改修が行なわれている。

当図幅の南部には松浦川の支流である巖木川が七山村と巖木町の境にある椿山溜池から南に流下し天川の水を集めて南西に流下し浦川、内川、平之川と更に田頭川、千東川、平山川と合流し、北西に流れを変えて伊岐佐川、左伊岐佐川、竹下川、松浦川と合流し、松浦川となって北に流れ宇木川、大森川、半田川、悪曾尾川、新川、北牟田川と合流して玄界灘に注いでいる。巖木川は右岸に作礼山 (887 m)、左岸に八幡岳 (764 m) のような比較的高い山地があり、そこを流れるので相当急な溪流河川である。

地質は殆んど花崗岩で、上流部は林相もよく発達しており天川との合流点附近には巖木第 2 発電所、その下流の立草附近には第 1 発電所があり総最大出力 8,030 Kw の電力を供給している 1 級河川である。

当図幅の谷密度を県境に沿って西部より東部に向ってみると十防山より浮嶽の北側斜面では 40～49/km<sup>2</sup> であるが、海岸線に至るにつれて 11～32/km<sup>2</sup> となっている。県境の南側斜面の玉島川の右岸域では河口部の平坦地を含めて大約 10～39/km<sup>2</sup> である。浮嶽より羽金山までの県境北側斜面は 40～48/km<sup>2</sup> であり、南側斜面の玉島川右岸域では 41～47/km<sup>2</sup> である。特に羽金山の北側斜面の長野川水系には 50～55/km<sup>2</sup> の地域が存在している。羽金山より雷山を結ぶ県境の北側斜面は 43～45/km<sup>2</sup> で雷山川、瑞梅寺川水系では 50～52/km<sup>2</sup> の地域がある。佐賀県側の神水川、嘉瀬川、天河川の流域では 35～39/km<sup>2</sup> が広く分布しているが、26～28/km<sup>2</sup> の部分も見受けられる。また図幅中央部の巖木川上流部椿山溜池から下流の星領附近までは 30～39/km<sup>2</sup> である。また当図幅の南部にある彦山、天山、そして

作礼山を結ぶ線の北側斜面の谷密度は  $40\sim 49/km$  で天山附近では  $50\sim 53/km$  作礼山の附近では  $51\sim 61/km$  の所が広く分布している。図幅の西部は松浦川が北上して玄界灘に注ぐが、この水系の流域は河口平地部の  $10\sim 16/km$  を除くと大よ  $27\sim 38/km$  であるが、左伊佐川の右岸側は当図幅では  $54\sim 62/km$  と最高の密度を示し上流部には、伊岐佐ダムが建設されている。

(佐賀大学 渡 辺 潔)

# VI 土地利用現況図

別葉

## VII 土壌生産力区分

### 1. 林地の土壌生産力区分

本図幅の佐賀県の森林面積は2万 ha 余りと推定され、その面積率は約60%で本県では最も森林の多い地域である。林地の面積率は竹林2%、無立木地7%、人工造林地77%となっており、この人工林の樹種構成比はスギ9割、ヒノキ1割で、5年生以下はスギ7割、ヒノキ3割となっており、最近の造林ではヒノキが若干多くなっているものの、林業経営の環境としては県内で最も恵まれた林業地域といえる。

従って、土壌の生産力についてはスギについて検討すべきであるが、その資料に乏しいため、背振山図幅と同様にヒノキについての土壌型～堆積様式と地位指数（林令40年生の平均樹高）および九州地方ヒノキ林分分収穫表の等級と地位級の関係を中心として検討した土壌生産力区分と土壌統との関連はおよそつぎのとおりである。

1等級（ $P_1$ ）湿性褐色森林土の頂吉統（肥前統）および褐色森林土の嘉穂統がこれに該当する。

2等級（ $P_2$ ）褐色森林土（黄褐色）の糸島1統（北山統）、褐色森林土の企救統（多良統）がこれに該当する。

3等級（ $P_3$ ）黒ボク土の奥山3統、褐色森林土の筑紫1統（嬉野統）、赤褐色の鹿島2統、黄褐色の背振1統（神埼統）がこれに該当する。

4等級（ $P_4$ ）砂丘未熟土の玄海統、乾性褐色森林土赤褐色の宗像1統および黄褐色の金山統がこれに該当する。

5等級（ $P_5$ ）岩石地および石炭鉍滓残積土のボタ統がこれに該当する。

（佐賀県林試 実松敬行）

### 2. 農地の土壌生産力区分

土壌生産力区分は本図幅の佐賀県内地域においておこない農林省地力保全基本調査事業における水田および畑地土壌生産性分級図を参考としたが、本図幅では傾斜、侵食等の土地条件や耕耘の難易による分級はおこなわず、次の分級要因によって分級した。すなわち、表土の厚さ、有効土層の深さ、表土の礫含量、土地の乾湿、湛水透水性、酸化還元性、自然肥沃度、養分の豊否、障害性



災害性等によるものである。

なお、この生産力等級は、樹園地では樹園としての、水田では稲作生産に対する土壌生産力等級であるので、同一土壌でも作目転換の場合は等級が変わることもあり、その農地固有の絶対的な等級ではないことを付記する。また同一土壌統内でも生産力が異なる土壌区を含む場合もあるが、本図幅では原則として土壌統単位にいずれかの等級に一括表示した。

本区分図での土壌生産力区分と土壌統との関連はおおむね次のとおりである。ただし、養分の豊否により下位等級であったものは、その後の管理により上位等級に移っていることも考えられる。

1等級 ( $P_1$ ) 本図幅の農地では該当する土壌統がない。

2等級 ( $P_2$ ) 樹園地、普通畑では桜統、荻野統、金田統、水田では北多久統、都志見統、佐賀統、宝田統、加茂統、追子野木統、久米統、新山統、烏帽子統の各土壌統が該当する。

3等級 ( $P_3$ ) 樹園地、普通畑では唐原統、赤山統、大代統、形上統、岩子島統、飯島統、水田では新野統、土佐山統、風透統、八口統、鴨島統、清武統、国領統、芝井統、水上統の各土壌統が該当する。

(佐賀農試 木原唯幸)

## VIII 利水現況

### 1. 農業用水

この図幅内の佐賀県域には大きなダムや溜池等がなく、県下随一の流路延長を有し、巖木川、伊岐佐川などを始め多くの支川が合流して豊富な水流をなしている松浦川、及び玉島川などの河川水にはほとんど依存している。

しかし今後とも農業用水の需要は拡大していくと思われるので、用水確保の為の施設等を整備していく必要がある。

### 2. 生活用水

本地域の佐賀県域の生活用水は、上水道5ヶ所、簡易水道9ヶ所、専用水道2ヶ所(1ヶ所は上水道と併用)により確保され、普及率は72%となっている。

また、福岡県域の生活用水は、上水道1ヶ所、簡易水道2ヶ所、専用水道1ヶ所により確保され、普及率は53%となっている。

今後、生活水準の向上などにより、使用水量の増加や保健衛生上から水道施設を整備し安定給水を図っていく必要がある。

### 3. 工業用水

本地域の市町村行政区域での工業用水は、上水道・井戸水に71%と大部分が依存している。

市町村別水道事業普及状況

単位：人，％

市町村名	区分	市町村人口	上水道		簡易水道		専用水道		合計	
			給水人口	普及率	給水人口	普及率	給水人口	普及率	給水人口	普及率
唐津市		76,352	62,869	82.3	4,556	6.0	(325)	—	67,425	88.3
多久市		25,484	15,503	60.8	7,204	28.3	—	—	22,707	89.1
大和町		17,442	—	—	7,663	44.0	320	1.8	7,983	45.8
富士町		6,556	—	—	286	4.4	—	—	286	4.4
三瀬村		1,823	—	—	—	—	—	—	0	0
小城町		13,963	9,937	71.2	504	3.6	—	—	10,441	74.8
浜玉町		10,399	—	—	4,051	39.0	—	—	4,051	39.0
七山村		3,330	—	—	267	8.0	—	—	267	8.0
巖木町		8,027	4,509	56.2	464	5.8	—	—	4,973	62.0
相知町		10,500	5,817	55.4	733	7.0	—	—	6,550	62.4
計		173,886	98,635	56.7	25,728	14.8	320	0.2	124,683	71.7
前原町		36,649	15,250	41.6	2,228	6.1	152	0.4	17,630	48.1
二丈町		11,096	—	—	7,700	69.4	0	0	7,700	69.4
計		47,745	15,250	31.9	9,928	20.8	152	0.3	25,330	53.1
佐賀県計		847,947	5,14,418	60.7	129,177	15.2	8,676	1.0	652,271	76.9
福岡県計		4,292,963	3,275,989	76.3	74,250	1.7	262,748	6.1	3,612,987	84.2

資料：昭和52年度 佐賀県の水道（昭和53年3月31日現在）

昭和51年度 福岡県の水道

（注）唐津市の専用水道の給水人口の（ ）内は、上水道と併用のため上水道の給水人口に含むものを表わす。

市町村別工業用水統計（従業員30以上の事務所）

単位：ヶ所， $m^3$ 

区分 市町村名	事業所数	1日当り水源別用水量 ( $m^3$ )								1日当り用途別用水量 ( $m^3$ )							
		工業用水道	上水道	地表流水	井戸水	回収水	その他	合計	海水	ボイラー	原料用水	洗製品処理水	冷却用水	温調用水	その他	合計	海水
唐津市	35	-	3,867	-	535	380	-	4,782	----	426	1,075	1,362	836	173	910	4,782	608
多久市	21	-	448	-	254	14	-	716	----	64	39	242	90	103	178	716	-
大和町	5	-	32	-	3,699	-	-	3,731	----	118	39	2,679	867	-	28	3,731	-
富士町	2	x	x	x	x	x	x	x	----	x	x	x	x	x	x	x	x
三瀬村	2	x	x	x	x	x	x	x	----	x	x	x	x	x	x	x	x
小城町	7	-	2,859	3,500	160	1,000	-	7,519	----	387	220	5,318	1,104	-	490	7,519	-
浜玉町	1	x	37	x	x	x	x	37	----	x	x	x	x	x	x	x	x
七山村	-	-	-	-	-	-	-	-	----	-	-	-	-	-	-	-	-
巖木町	7	-	363	5	1	-	-	369	----	140	4	135	10	13	67	369	-
相知町	7	-	23	5	105	-	-	133	----	19	20	52	26	-	16	133	-
計	87	-	7,629	3,510	4,764	1,394	6	17,303	----	1,157	1,397	9,816	2,933	289	1,711	17,303	608
前原町	5	-	31	-	89	-	124	244	----	37	103	57	17	4	26	244	-
二丈町	0	-	-	-	-	-	-	-	----	-	-	-	-	-	-	-	-
計	5	-	31	-	89	-	124	244	----	37	103	57	17	4	26	244	-
佐賀県計	470	25,801	17,238	11,864	5,629	120,132	377	345,151	----	7,768	5,776	108,721	196,777	14,426	11,683	345,151	610
福岡県計	1,649	240,925	73,726	25,332	9,122	485,053	50,266	5,599,306	3,561,228	78,279	11,151	802,210	4,373,905	94,760	239,001	5,599,306	3,561,228

資料：昭和51年 佐賀県の工業，総計調査課 昭和52年福岡の工業

## Ⅸ 防 災 図

浜崎図幅の北部、福岡県側の防災関係についてのみ記載を行う。

井原山、雷山、浮嶽から十防山へと東西に連なる山脈が玄界灘に迫り、平野部分の少い区域となっている。(特に本図幅では山地部分が主体となっている)、従って、防災上の問題となるのは、主として山崩れと土石流とであり、洪水の比重は小さい。

### 1. 洪 水

近年、標高200m以下の山地・丘陵部分の林地が、大面積にわたって改変され、果樹園となっている。特に、西方、二丈町福吉地区でこの傾向が強い。

果樹園は林地にくらべて強雨に対する透水性が低く、このため豪雨時における、山地、丘陵の洪水調節機能は大巾に減少しているものと推定される。

幸い、本図幅内には、洪水犯濫面としての平地部分が少く、また、保全対象となる集落の殆どが、一段高い台地部分に分布しているため洪水の危険性は小さいものと考えられる。

ただ、瑞梅寺川、雷山川、長野川の下流部には、本図幅外(前原図幅)ではあるが、志摩半島を陸繋する低湿な平野が広がっており、この面での洪水、冠水が心配される。

### 2. 崩 災

この地域に隣接する志摩、早良、富士町等の山地丘陵では、昭和34年、37年、38年、48年とかなり激しい崩災に見舞われているのであるが、幸い此の地区は難を免れ、昭和初期に目立った災害を記録する程度で、最近20～30年の間は、大きな崩災を蒙っていない状況下にある。

しかしながら、急な山地が平野に迫り、各谷の開口部(押し扇状地)や、斜面の直下に集落が分布する例が多く、一旦、豪雨におそわれた場合は、土石流による大災害をひきおこす危険性が高い。

この点を配慮してか、主要な溪流～谷部には、砂防、治山を目的とした防災ダムが、比較的密度高く設置されており、防災体制を整えつつある状況となっている。

(九大農学部 竹下敬司)

1979年3月

印刷発行

佐賀県山間開発地域

土地分類基本調査

浜 崎

編集発行

佐賀県 企画室

〒840 佐賀市城内1丁目1-59

印刷

有限会社 ディック

佐賀市成章町7番41号